

さいたま水上公園再整備事業概要

平成30年10月

コバトン



< 目次 >

- 1 . さいたま水上公園と関連施設の概要
- 2 . さいたま水上公園の位置について
- 3 . 事業対象地の概要・基本情報
 - 3 - 1 . 事業対象区域
 - 3 - 2 . 各施設の利用状況
- 4 . さいたま水上公園のあり方検討委員会(平成27年度)
- 5 . 官民連携可能性調査の実施(平成28年度)
- 6 . ヒアリング結果を基にした、さいたま水上公園再整備イメージ(平成28年度)
- 7 . 県政サポーターによるアンケート結果(第115回(簡易)アンケート)(平成29年度)
- 8 . サウンディング型市場調査の実施結果(平成29年度)

1.さいたま水上公園と関連施設の概要



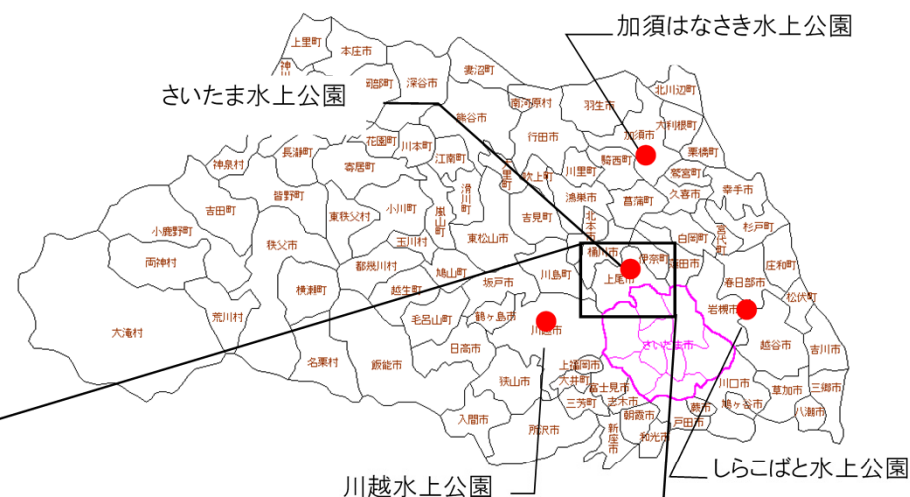
2. さいたま水上公園の位置について(広域道路網)

さいたま水上公園は、埼玉県の中央地域上尾市南部、さいたま市北区にほど近い。国道17号に隣接、圏央道にも近接しており高い交通利便性を有している。



2. さいたま水上公園の位置について(公共交通)

最寄駅は、JR高崎線 上尾駅。
ニューシャトルは丸山、沼南、原市の
各駅となります。



J R 高崎線 上尾駅

大宮駅から2駅(8分)

上尾駅から約2 km

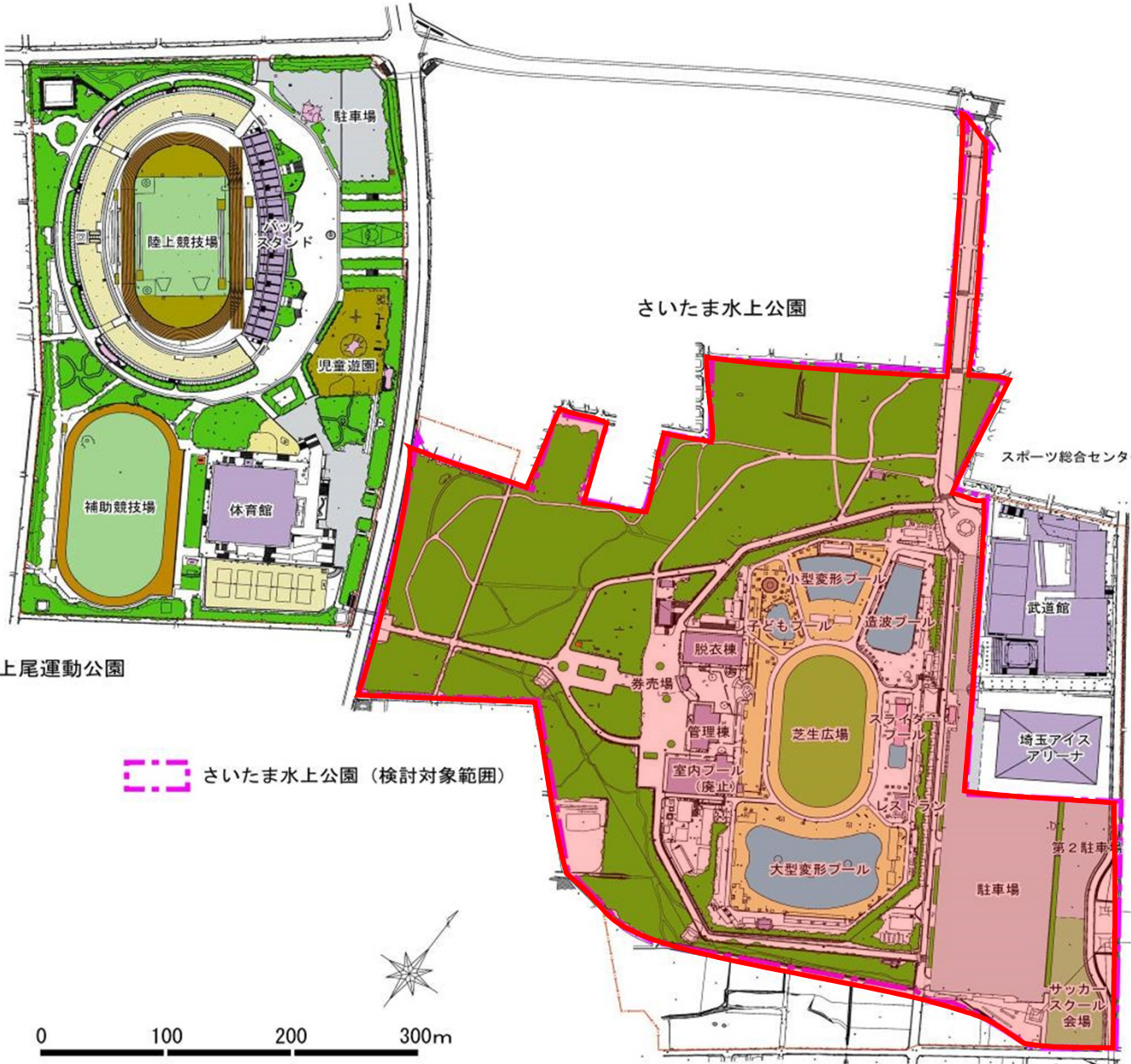
徒歩 約25分

バスと徒歩 約15分



3. 事業対象地の概要・基本情報

3-1 事業対象区域



【事業対象区域面積】

上尾運動公園全体（都市公園）	37.1ha
検討対象区域（公園東側エリア）	24.0ha
さいたま水上公園	21.5ha
・プール施設	6.6ha
・樹林地	10.4ha
・駐車場	4.5ha
武道館	1.6ha
アイスアリーナ	0.9ha

上尾運動公園西側施設（陸上競技場、体育館等）との利用連携は可能です。

【土地利用情報】

項目	内容
所在地	埼玉県上尾市日の出地内
都市施設	都市計画公園（埼玉県営）
区域区分	市街化区域、一部市街化調整区域
地域地区	指定無し
用途地域	指定無し
建蔽率	12%（都市公園法による規定）
容積率	100%

3. 事業用地の概要・基本情報

3-2 各施設の利用状況

さいたま水上公園を含む上尾運動公園内有料施設の、直近4箇年の施設別利用者数は下表のとおりです。陸上競技場や体育館を除き、各施設の利用数が減少傾向にあります。

年度	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	
夏季プール	-	85,715人	-	81,936人	-	72,505人	-	63,001人	平成24年度から流水プール 平成30年度から大型変形プール 営業中止
駐車場	21,760台	-	21,892台	-	19,640台	-	17,289台	-	
室内プール	-	17,802人	-	-	-	-	-	-	平成27年度から営業中止
陸上競技場	437件	144,221人	477件	148,958人	509件	148,424人	1,845件	145,349人	補助競技場含む
体育館	1,079面	102,661人	1,235面	113,272人	1,152面	111,811人	1,041面	110,960人	
テニスコート	2,790面	17,680人	2,954面	17,744人	2,766面	15,060人	2,358面	13,294人	
計		368,079人		361,910人		347,800人		332,604人	

4. さいたま水上公園のあり方検討委員会（平成27年度）

平成27年度に有識者4名からなる「さいたま水上公園のあり方検討委員会」を立ち上げ、さいたま水上公園の今後のあり方を取りまとめました。

4-1 新たな公園の方向性

“様々な世代が、緑豊かな風景の中で集い・交流し、健康を育む公園”

4-2 新たな公園に求められる4つの主要機能

“健康づくり”

“軽スポーツ・レクリエーション”

“リラクゼーション・癒し”

“子育て支援”

- 自由に利用できるフレキシブルなフロアで、健康づくり機能を充実
- 芝生広場や樹林地で多世代が楽しめる健康づくり機能を充実
- 健康づくり・スポーツ機能を充実
- 親水機能を継承（さいたま水上公園のレガシー）
- 感性を豊かにする癒し空間を演出
- 食、リラックス空間を提供し、健康づくり機能を充実
- ファミリー層のニーズに応える魅力的機能を導入
- 快適な樹林環境へ転換し、体験・学習、子育て支援の場として活用

4-3 さいたま水上公園のあり方

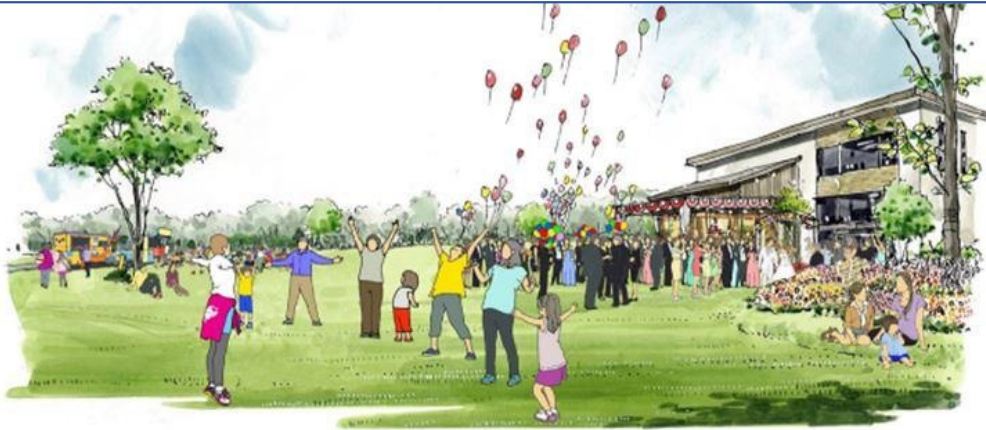
- 施設や屋外を活用した様々な健康プログラムの実施
- 四季を通じて楽しめる親水機能を導入
- 健康づくり・スポーツの拠点として機能を強化
- 子育て世代のファミリーが自由に遊べる広場を整備
- 心を癒し都市を彩る花やみどりによる感性の高い景観を創出・活用
- 野外活動・遊び場等として樹林地を活用

4. さいたま水上公園のあり方検討委員会（平成27年度）

4-4 公園のあり方展開イメージ(ストーリー)

『健康プログラム活動やくつろぎのイメージ』

毎日がウェルネス：“健康をテーマとした「食」や様々な「運動プログラム」による特色のあるサービスを展開”



『季節の移ろいを五感で感じる癒しのイメージ』

全ての人を楽しみ、参加する：“木漏れ日の「ヨガ教室」と「ノルディックウォーキング」、公園の四季を彩る「ガーデニング活動」や写真撮影など、利用者が思い思いの交流を展開”



『時を忘れ家族・友人と楽しむにぎわいのイメージ』

水が織り成すエンターテイメント：“夏場のにぎわいを演出、イベント時には噴水の水の動き・光・音を合わせた優美さ等を四季に合わせ展開”



『偉大な大樹とのふれあい、たおやかな木々に包まれたやすらぎのイメージ』

緑の継承と活用：“大樹の回廊でゆったりとした時間を過ごす森林浴や、自然の偉大さ、一体感を感じるアクティビティ、市街の森の中で人と自然の共生を展開”



5. 官民連携可能性調査の実施（平成28年度）

5-1 ヒアリングの実施目的

さいたま水上公園の再整備に向けて（都市公園法による設置管理許可制度の導入を念頭）

平成27年度の委員会での方向性を踏まえ、
レジャープールに代わる新たな賑わい創出を検討

民間活力を導入
（資金・事業ノウハウ）

PFI事業など官民連携事業の実績や
新たな事業提案が見込まれる企業に対し、
ヒアリングを実施

事業手法の擦り合わせは
未実施

5-2 ヒアリング結果

民間活力を導入したにぎわいを創出できる可能性や、
今後も継続的な対話を希望する民間企業を確認することができました。

【主な意見】

- 設置管理許可制度の中での事業参画の場合、投資した資金回収のため、重構造物や維持管理費の平準化が見込めない施設の建設は困難である。可変性のある施設を建設し、事業経過により改築・改修が可能な施設とする必要がある。
- 事業規模が大きく、また多種多様な施設機能の導入が不可欠であるので、単独参画ではなく、それぞれの事業分野を得意とする企業グループによる参画になると考えられる。
- 事業公募における要項確定までの間、県と事業者側双方にメリットとなり発展性のある事業推進が可能となるよう、参画意向のある企業あるいは企業グループとの間で事業要件に関して、十分な対話が必要である。

6. ヒアリング結果を基にした、さいたま水上公園再整備イメージ（平成28年度）

平成28年度に実施した民間企業へのヒアリング結果（意見）を基に、あり方検討委員会で示された4つの主要機能に照らした賑わい施設の整備イメージを作成しました。

“健康づくり”

“軽スポーツ・レクリエーション”

“リラクゼーション・癒し”

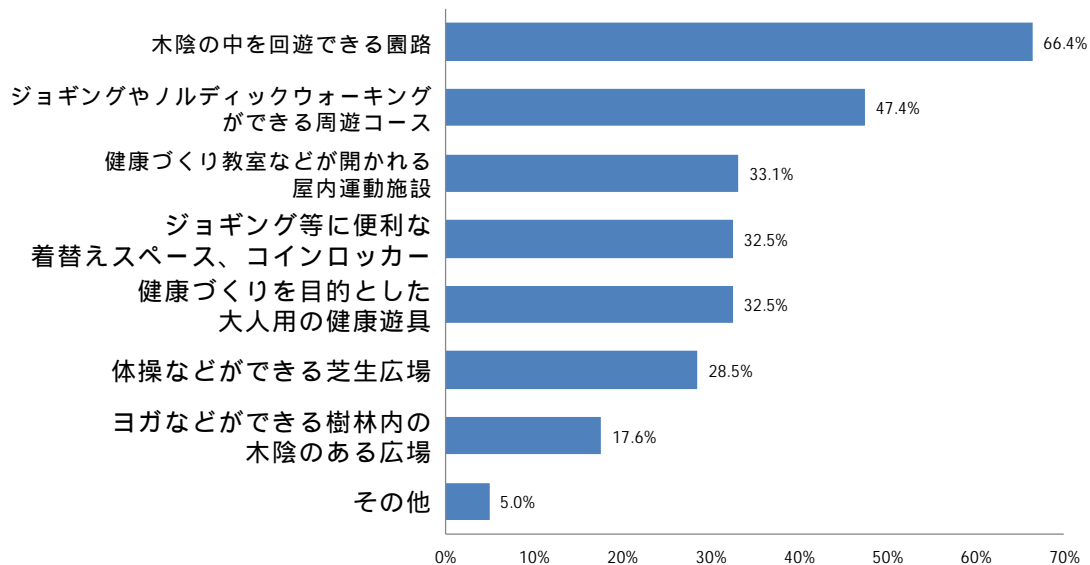
“子育て支援”



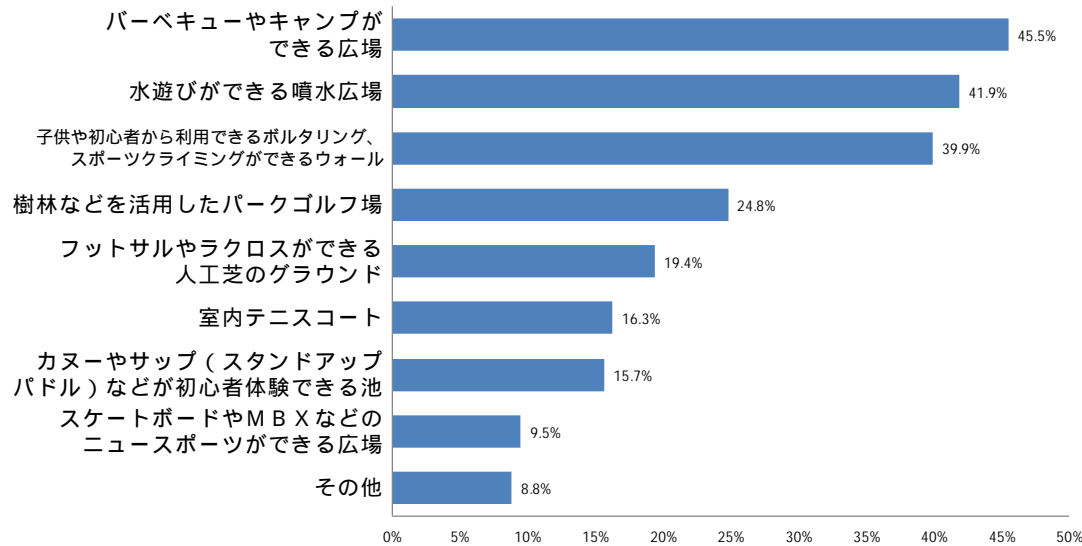
7. 県政サポーターによるアンケート結果(第115回(簡易)アンケート)(平成29年度)

平成29年10月に実施したアンケート「上尾運動公園(さいたま水上公園)のリニューアルについて」(回収数2,002名)では、民間事業者による公園運営に対して9割弱の方が賛成と回答しており、官民連携に期待が寄せられています。また、本公園に求められる4つの主要機能に関して利用したい施設は以下のとおりとなっています。

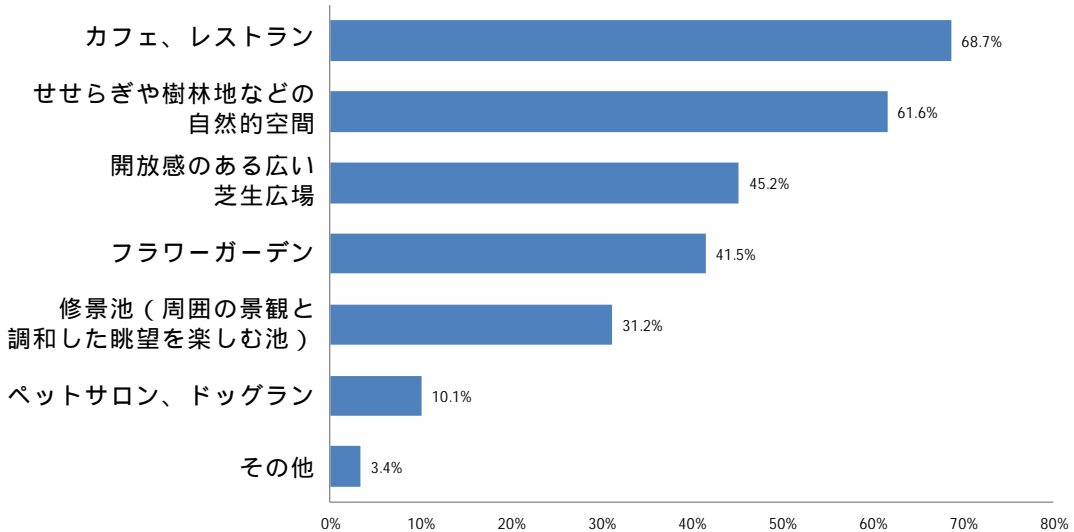
“健康づくり”に関して利用したい施設



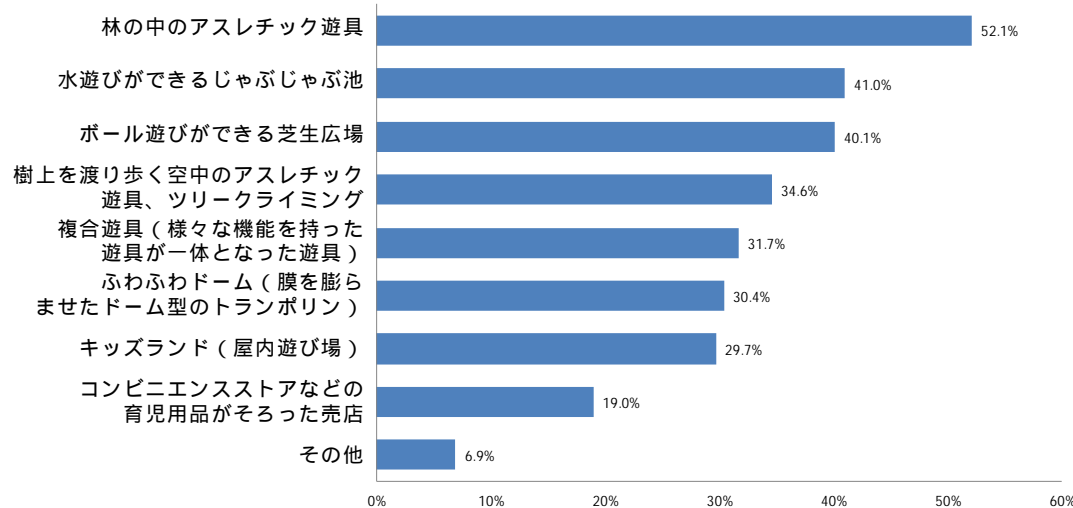
“軽スポーツ・レクリエーション”に関して利用したい施設



“リラクゼーション・癒し”に関して利用したい施設



“子育て支援”に関して利用したい施設



8. サウンディング型市場調査の実施結果（平成29年度）

4つの主要機能の具現化を目指し、貴重な樹林地を有するさいたま水上公園の特徴を活かした新たな賑わいを創出するため、民間企業からアイデアやノウハウのご提案をいただくとともに、本公園再整備の市場性や参画に向けた公募条件に関する意向を把握するため、サウンディング型市場調査を実施しました。

【調査の経過】

- ・ H29年10月5日 実施要領の公表
- ・ H29年10月19日 現地説明会・視察会（参加36社）
- ・ H29年11月21日～ 個別対話の実施（参加24社）
- ・ H30年2月5日 結果概要の公表

【調査の結果】＜投資可能と回答のあった企業：13社＞

さいたま水上公園全体に関する多くの事業提案が把握できた一方、10haを超える広大な樹林地の維持管理や利活用については提案が少なく、引き続き検討が必要となりました。

【民間事業者が投資可能と回答された施設の例】

“健康づくり”

ランニング・ウォーキング教室
フィットネスクラブ
ヨガ・アウトドアフィットネス



“軽スポーツ・レクリエーション”

アウトドアキャンプ場
グランピング
屋外ボルダリング
人工芝グラウンドコート
屋内テニスコート
イベントスペース(水上アスレチック等)



“リラクゼーション・癒し”

飲食事業(カフェ、レストラン)
ドッグラン
カルチャー・ヘルスケア事業
バンケット事業



“子育て支援”

親子の遊び場(屋内・屋外)
幼児教育
仮設プール
森林アドベンチャー施設
物販事業
学童保育事業、子育て支援拠点事業

